

## 石川県告示第150号

石川県情報公開条例附則第2項の規定により、平成12年4月1日以降新たに同条例が適用される公文書は、次のとおりである。

昭和43年度以前の公文書のうち、保存期間が永年のもの

この告示によって、昨年4月から石川県では、過去のすべての永年保存文書は公開されることになった。整備は5年で完了したのである。こうした作業を経過措置というのであって、金沢市が10年たっても、「経過措置」に手をつけないのは、条例の趣旨を踏みにじっているものといえよう。

一刻も早く解除措置が取られることを望

むものである。

金沢市に比べて、石川県の情報公開条例が格段に進んでいるのは明らかなのだが、石川県に少々苦情を言わせてもらえば、文書を保管・管理する各課で、知事の告示どおりになっていない実態がある。「永年保存文書」の意味をよく理解していないためであろう、重要文書が行方不明になって、市民からの指摘で右往左往している。その都度、幹部職員が陳謝しても、資料整理のために人員と時間を保証しないと、担当職員に疲労が蓄積するだけである。県庁移転を2年後に控えている。今すぐ措置をしないと大量の重要文書が永久に消える。

## 北陸 PICKUP

本号から登場するこの欄では、北陸を中心に、地域の様々な活動や身近な問題などを取り上げ、レポートしていきます。

## 金沢市大野町 「くらくらアートプロジェクト」

2001年4月1日、金沢市大野町にまた新しい空間が誕生した。「くらくらアートプロジェクト」の3つ目の拠点、ハマヨスタジオだ。ここは、二人の造形作家がアトリエとして使用し、週末は一般にも開放される。「しょうゆの里」として知られる大野町には、醤油の原料となるもろみを醸造していたもろみ蔵が、現在40棟近く残っている。



ハマヨスタジオのオープニングパーティ

大野を代表する地域資源であるもろみ蔵の保全活用を通じて、地域に密着したまちづくりを展開しようと、蔵を改装し、再生させる取り組みがなされている。1998年1月に、喫茶サロン「もろみ蔵」がオープン、2000年10月には、アトリエ兼ギャラリーの「oxydol」がオープンした。ハマヨスタジオ以降も、数棟の蔵の改装が予定されている。蔵の再生によるまちづくりに取り組む大野町と、アトリエを探していた美大出身の若い作家たちとの出会いが、アートを中心にしたまちづくり「くらくらアートプロジェクト」の誕生に結びついた。



「oxydol」の壁のペンキ塗り。年月を経た周りの壁に馴染む色を。

「空いている蔵をお借りして、若手の現代アーティスト（美術、舞踏、演劇、音楽など）が育っていく空間を提供していこうとして」（『もろみ蔵だより』第27号より）い



みんなで作戦会議。大野名産のおかしなどつまみながら。

るのが、くらくらアートプロジェクト。特徴として、このプロジェクトや、大野という町に興味をひかれて集まってきた、美術や建築を学ぶ学生、芸術家、建築家、仕事や勉強に直接関係なく参加している好奇心旺盛な人など様々な立場の人たちによって運営されている点、そして、幾度となく行われるワークショップを通じて、実体験としてまちづくりに参加できる点があげられる。ワークショップの内容は、蔵の掃除やペンキ塗りなどの作業から、今後の活動の作戦会議まで、多岐にわたる。これらを通じて、まちづくりのおもしろさを体験することによって、まちづくりを担う人材を育てるねらいもある。

実は筆者自身、このプロジェクトに参加しているのだが、毎回のワークショップが楽しくて仕方がない。20～30年近く眠っていた蔵には、みたこともない醤油作りの道具がごろごろ。年数に比例して、モノもホコリも堆積していて、壁や床など、朽ちて



こんなに大きな桶が中に潜んでいました。

いる個所がある。最初は、とても再生した姿を想像できなかった。が、それが、徐々に手を加えられ、見事に蘇る。壁のペンキ塗りをしたり、自分でも直接再生に関わるのも醍醐味。愛着も湧く。だんだんと蔵にふたたび命が吹き込まれていく過程を目の当たりにでき、完成したときの感慨もひとしおだ。自分の普通の生活範囲では、なかなか出会えない人たちと知り合えるのも、大きな魅力。様々な関心や、得意分野を持った人がどんどんと大野町にやってくる。



オープンしたてのハマヨスタジオ。100人を超えるたくさんの方が訪れてくださいました。

こんな具合に人のつながりが広がっていくのが、まちづくりの重要な核のひとつと最近感じるのだが、どうだろうか。

人材も豊富になってきた「くらくらアートプロジェクト」は、今後以下のようなチームによって遂行される。

- ・アート企画運営：ギャラリー、アトリエ、パフォーマンスシアターを運営する
- ・空間デザイン：大野地区の外部空間や案内サインなどのデザインを検討する
- ・もろみ通貨：地域通貨「もろみ」の運用の検討、管理を行う
- ・広報：ニュースペーパー、ホームページなどを活用して、プロジェクトを周知させ、サポーターを募る

この他、このまちづくりをサポートするために広く“投資”をよびかける「くらくらアートファンド」も設立された。

みんなでやってみては、考え、またやってみる。こうして社会実験を繰り返し、プ



ハマヨスタジオのオープニングパーティにて。地元の漁師さんがとってきてくれた美味しいお魚でおもてなし。まちづくりには美味しい食べ物と会話が欠かせない。



ハマヨスタジオ中の様子。ただいま作品製作中。

プロジェクトは進められていく。自分たちの考えが、実際に形となっていく“live感”や、自分たちで運営しているという手ごたえが、また大野へとみんなを向かわせる。

3年前、喫茶サロン「もろみ蔵」という点からはじまった取り組みは、今、面の広がりを見せ始めた。いつかきっと、大野の

町に、新しい流れを作り出すはずである。5月の中旬からは、ハマヨスタジオの庭をみんなで作る、「庭づくりワークショップ」が始まる。飛び入り歓迎。大野にすれば、新しい流れを生み出す当事者になれるのだ。

もろみ蔵ホームページ：

<http://www.moromigura.com/>

問い合わせ先：

くらくらアートプロジェクト実行委員会

代表 水野 雅男

e-mail:mmasao@mb.infoweb.ne.jp

Tel : 076 - 247 - 8220

Fax : 076 - 247 - 5766

(報告:金沢大学経済学部助手 吉村未紀子)

### ・・・お知らせ・・・

石川県商工労働部商工政策課と金沢大学経済学部がまとめた、石川県の「産業IT化実態調査報告書」が発行されました。ご希望の方は、地域・経済資料室(076-264-5438)もしくは [myoshi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:myoshi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) までご連絡ください。

### 編集後記

現在紙面づくりで試行錯誤中で、読者の皆さんには、毎号大変ご迷惑をおかけしております。おもしろい、といって頂けるよう、カメの歩みですが努力して参りますので、どうぞよろしくお願いします。(Y)

地域経済ニューズレター第57号  
2001年5月30日発行

発行/金沢大学経済学部地域経済資料室  
金沢市角間町(☎920-1192)

☎(076)264-5438

編集/金沢大学経済学部  
地域経済ニューズレター編集委員会

印刷所/金沢市昭和町2-2

(有)富士印刷社

☎231-2062